

市町村保健活動促進充実に関する調査研究

研究者 坂本祐之輔（全国市町村保健活動協議会会長）

**研究要旨** 介護保険制度の実施や医療制度改革等各種制度の施行により市町村が担う保険事業の多様化とともに市町村保健師の分散配置、マンパワー不足の問題が深刻化している。そこで、これらの状況が保健師の意欲、意識にどのような影響を与えているか調査・分析するとともに、保健師リーダー等の資質向上を図る研修・研究会を行い市町村保健活動の促進充実を資することとする。

- I 多様化する市町村保健事業における保健師のあり方に関する調査
- II 市町村保健活動の推進に資する研修・研究

I. 多様化する市町村保健事業における保健師のあり方に関する調査

A. 研究目的

本会が昨年度実施した市町村保健師の意識調査で市町村が担う対人保健サービスの多様化、保健師の分散配置、マンパワー不足の状況が明らかになった。このことが保健師に及ぼす影響を調査し、これからの市町村保健師のあり方を明確にし今後の保健師の活動改善に資することを目的とする。

B. 研究方法

1. 調査対象

全国を北海道・東北、関東、東海・北陸、近畿、中国、九州の6ブロックに分け、各ブロックから次の県を抽出し、各県の全保協会員保健師4,446名を対象とした。

各県の会員保健師数は次のとおりである。  
(平成20年4月末現在)

県名	保健師数(名)	県名	保健師数(名)
青森県	324	大阪府	704
山形県	326	和歌山県	240
栃木県	405	鳥取県	167
千葉県	742	島根県	247
福井県	210	熊本県	377
岐阜県	491	宮崎県	213

2. 調査方法

上記各県の協議会の協力を得て、調査対象として抽出した市町村保健師に調査票を送り、2,381票(回収率:53.6%)の有効票を回収した。なお調査の期間は20年8月から9月末日までの間である。

3. 調査内容

(1) 職場の状況について

- ア 所属部門における保健師の入職・離職・異動状況
- イ 職場における保健師活動の位置づけ
- ウ 人材育成体制の状況
- エ 地域住民組織等との連携・協働状況

(2) 職場環境に対する意識について

(3) 仕事の“やりがい”に対する意識について

C. 研究結果

現在、集計分析中であるが、中間集計の中から主なものを掲げる。(係数異動あり)

1. 職場環境に対する意識

1) 保健師としての活動の方針が明確である。

「思う」と回答した保健師の割合が33.9%を占めている。保健師の増員に積極的であるところ、保健師の教育体制が整っているところで、「思う」の割合が高い傾向がみられた。

2) 保健師としての能力を伸ばす機会が与えられている。

「思う」と回答した保健師の割合が43.2%を占めている。保健師の増員に積極的であるところ、市町村が地域の健康づくりに力を入れているところ、部門長が保健師であるところ、部門長が保健師であるところ、部門長が保健師であるところ、「思う」の割合が高い傾向がみられた。

3) 外部の研修会に参加する機会を与えられている。

「思う」と回答した保健師の割合が74.5%を占めている。市町村が地域の健康づくりに力を入れているところ、保健師の教育体制が整っているところ、「思う」の割合が高い傾向がみられた。

4) 同じ部門のスタッフ同士、お互い助け合い、協力し合っている。

「思う」と回答した保健師の割合が78.6%を占めている。市町村が地域の健康づくりに力を入れているところ、保健師の教育体制が整っているところ、実践活動を通して専門職を育てているところ、「思う」の割合が高い傾向がみられた。

5) 他部門のスタッフと、お互いに助け合い、協力し合っている。

「思う」と回答した保健師の割合が50.2%を占めている。市町村が地域の健康づくりに力を入れているところ、部門長が保健師であるところ、他部門と協働で事業を実施しているところ、実践活動を通して専門職を育てているところ、「思う」の割合が高い傾向がみられた。

6) 保健師として十分な仕事をするだけの時間が与えられている。

「思う」と回答した保健師の割合が29.3%である。保健師の増員に積極的であるところ、市町村が地域の健康づくりに力を入れているところ、保健師の教育体制が整っているところ、実践活動を通じて専門職を育てているところ、「思う」の割合が高い傾向がみられた。

7) 職場では、保健師の判断や意見が尊重されている。

「思う」と回答した保健師の割合が49.9%を占めている。保健師の増員に積極的であるところ、市町村が地域の健康づくりに力を入れているところ、市町村が統括保健師を配置しているところ、部門長が保

健師であるところ、保健師の教育体制が整っているところ、実践活動を通して専門職を育てているところ、「思う」の割合が高い傾向がみられた。

8) あなたは、ほぼ毎日、地域に出向いて仕事をしている。

「思う」と回答した保健師の割合が16.5%である。

9) 保健事業の企画で、保健師が中心的な役割を果たしている。

「思う」と回答した保健師の割合が63.3%を占めている。市町村が地域の健康づくりに力を入れているところ、部門に統括保健師がいるところ、部門長が保健師であるところ、他部門と協働で事業を実施しているところ、実践活動を通して専門職を育てているところ、「思う」の割合が高い傾向がみられた。

## 2. 仕事の“やりがい”に対する意識

1) 保健師としての仕事にやり甲斐を感じている。

「思う」と回答した保健師の割合が53.0%を占めている。市町村が地域の健康づくりに力を入れているところ、他部門と協働で事業を実施しているところ、保健師の教育体制が整っているところ、実践活動を通して専門職を育てているところ、地域住民組織等を積極的に育成しているところ、「思う」の割合が高い傾向がみられた。

2) 保健師としての専門性を発揮できている。

「思う」と回答した保健師の割合が33.9%を占めている。市町村が地域の健康づくりに力を入れているところ、他部門と協働で事業を実施しているところ、保健師の教育体制が整っているところ、実践活動を通して専門職を育てているところ、地域住民組織等を積極的に育成しているところ、「思う」の割合が高い傾向がみられた。

3) 保健師としての役割を十分に果たせている。

「思う」と回答した保健師の割合が42.8%を占めている。市町村が地域の健康づくりに力を入れているところ、保健師の教育体制が整っているところ、実践活動を

通して専門職を育てているところ、地域住民組織等を積極的に育成しているところで、「思う」の割合が高い傾向がみられた。

5) 保健師として、創意工夫をしながら活動している。

「思う」と回答した保健師の割合が46.2%を占めている。市町村が地域の健康づくりに力を入れているところ、他部門と協働で事業を実施しているところ、保健師の教育体制が整っているところ、実践活動を通して専門職を育てているところ、地域住民組織等を積極的に育成しているところで、「思う」の割合が高い傾向がみられた。

6) 私は、多くの地域住民から頼りにされている。

「思う」と回答した保健師の割合が15.1%である。実践活動を通して専門職を育てているところ、地域住民組織等を積極的に育成しているところ、地域住民組織等と連携して継続的な事業を行っているところで、「思う」の割合が高い傾向がみられた。

#### D. 今後の計画

保健師の職場環境に対する意識、仕事の“やりがい”に対する意識について、職場における保健師の位置づけによる違い、人材育成体制の状況による違い、住民組織等との連携・協働状況による違いについて分析した。今後は、人口規模、年齢、職位による意識の違い、そして合併が意識に及ぼした影響等について分析していきたいと考える。

## Ⅱ. 市町村保健活動の推進に資する研修・研究

### A. 研究目的

市町村保健師等地域保健の保健活動リーダーを受講対象とする専門研修を実施し、各テーマに対する研究を行い、それらの資質向上を図ることを目的とする。

### B. 研究方法

厚生労働省の指導を受け、全保協専門委

員会の意見を聞き、具体的なプログラムを策定し実施した。本研修のメインテーマは「多様化する市町村保健事業における保健師のあり方」とした。

### C. 研究結果

#### 1) 開催日時、場所、参加者数

平成21年2月4日(水)、5日(木)  
東京都港区南青山 健保会館  
参加者数 200余名(全国応募)

#### 2) 研修内容

##### ○講演

「多様化する市町村保健活動の今後にむけて」

日本看護協会

会長 久常 節子 氏

「新たな地域福祉のしくみづくり」

ルーテル学院大学

総合人間学部社会福祉学科

教授 和田 敏明 氏

「国民健康保険と地域保健活動」

厚生労働省保険局国民健康保険課

課長 武田 俊彦 氏

##### ○グループ研究

市町村の現場で、今日最も重要と思われる課題のうち、

(1) 「特定保健指導」～現状と課題～

(2) 「健康なまちづくり」

～住民参加による活動事例～

(3) 「子育て支援活動の取組み」

～こんにちは赤ちゃん事業を通して～

をテーマに選定し、3つの分科会形式でのグループ研究を行った。

各分科会とも市町村の実践活動の代表事例が発表され、招聘した厚生労働省の担当専門官等が助言者となり、活発な意見交換等を行い課題集約に努めた。

##### ○シンポジウム

「多様化する市町村保健事業における保健師のあり方～今こそ保健師活動の原点を問う～」をテーマとし、行政、医療関係者、地方自治体首長、保健師の立場にあるシンポジストから、これまでの実践・実績を評価していただき、今後の取り組みにつ

いて意見・要望等を聴き、淑徳大学名誉教授坂巻熙氏のコーディネートにより、会場参加者を交えた討議を行った。

#### D. 考察

今回の研修では、多様化する市町村保健事業における保健師活動の講演・シンポジウムを中心に、国の動向等現場の活動に必要な最も関心の寄せられている最新の情報を得ることができた。さらにグループ研究では、現場からの実践事例提供をもとに活発な意見交換を行う等相互研鑽の場としての一役も担った。

これらの柔軟性のあるプログラムを設定した本研修会は、年々好評で200名を超える受講者の強い共感を得ることができたと考えている。

#### 〔結論〕

数少ない全国研修の中でも、本研修会は中央の第一級講師陣の協力が得られ、また、全国の実践事例を題材に充実した研究、討議が行えるなど、国の指導方針の浸透を図る意味での効果ある研修との評価を得ているが、同時に受講者の反応も非常に良好である。今後も継続的に質の高いプログラム編成を行い、保健師リーダーの資質の向上が期待できることを実証できる研修に位置づける努力を重ねていきたいと考える。

#### (付記)

調査事業の結果及び専門研修の内容は、市町村保健活動従事者に広く伝達することが必要と考え、その概要を、平成21年4月発行の本会機関誌(15,000部発行)に掲載することとしている。